

飯田真三氏のマンホール話

2013.6 「飯田真三作品展 広島都市の記憶 マンホールから定礎まで」旧日本銀行広島支店及び呉の個展の展示で使用しました。

2016年8月末。滋賀県、青海環境プラザの展示蓋全48枚の拓本。ちょっと反則ですが、1枚あたり15から20分くらいかかり、3日かかりました。会館時間は限られているので、毎日昼食抜き。弱冷房なのと部屋の隅だったので蒸し風呂状態で汗がポタポタ。冷房強くして、とも言えないし…。3泊4日でほとんど拓本作業で、宿と施設の往復で終わりました。

ふたの東海道五十三次。ファミマのトラックのそば、看板そばを歩くのは横浜市、黄色い服、戸塚、あと2枚は清水市。

ふたの東海道五十三次の第一弾。1999年。一枚ものの紙で、長さ約25メートル。ただし、蓋中央の市章だけです。

広島市の蓋全調査の時に使用した住宅地図とスケッチノートの一部と、市町村の紋章資料（図書館で書籍から移し書き）調べ追えた道は黄色で塗りつぶし。1996年ごろから約2年。手書きのイラスト。当時はパソコンも無く、タブレットも夢の未来。分厚い写真アルバムで見せていましたが重いしどれが焦点かも分かりにくいので描いた次第。

拓本道具。紙は市販の障子紙、墨は拓本墨で、書道用品店にて。蓋の上に紙を置き、墨でこするだけ。墨は固形なので水は使いません。

広島市に残る、大正時代設置と思われる鉄蓋たち。26枚発見しましたが、今は何枚残っているか？裏側を見せてもらったことがあるのですが、メーカー名や型番など一切刻印なし。そういや、友鉄さんの10年くらい前のカタログ見ると、中央部のまるまる模様が！出所はどこかに？因みにこれとほぼ同じものを愛媛県で見つけてます。

愛媛県の菊間町で見た記憶があります。10年くらい前なので今もあるかは分かりません。そういや、広島市の四角い蓋と松山市の蓋は似ているので何か関係性があるのかな？

1990年！のカタログ？この四角い蓋の図面の中央部が、大正時代の蓋とそっくり。全国歩きましたが、広島と愛媛以外では見たことはありません。

直径20センチくらいですが、下水の蓋。ランプホール。燈光蓋とも。ここから燈を下ろして、隣の下水管から途中の管路をチェックしていた、と言われていました。広島市内に4枚だけ。全国どこの町でも必ずある、もしくはあった訳では無いので、出会うのは至

難の技。旅先の町でも見た記憶はほとんどないです。当然ながら町ごとに模様は異なります。仮によその町で同様のものか判断する時、特に何も書かれていないのと小さいので上水にも見えますが、雰囲気ですぐとなく分かります。マンホーラーの骨董好きの人々からは、この蓋はキングとの認識で、かの林丈二氏も、文化財級のシロモノとおっしゃっていました。

江波に3枚、中区のいよ銀行の南側に1枚。かつては東区尾長にも2枚ありました。江波の蓋をみんなで見て歩き、公式には2回。あと、マンツーマンではいろんな人を何度のご案内しています。テレビロケ中の一コマ。東広島市志和のホテル模様の拓本中の一コマ。運命の口だったかなんだったか、これも下水の蓋説がありますが、カキシタ先生によると、あの説は怪しい！とおっしゃっていました。詳しい話は時間がなくてそれきり。これ、十日市あたりのマンションかパチンコ屋の入り口にあったもの。探すとこんなプラスチック製のレプリカがあちこちにありますね。

下水蓋じゃないですが、上水道の止水栓、戦前のレア物。文字が右からで、HWW は、Hiroshima water works の略、広島市水道、の意味。戦前なので、水道局、にならなくてもいいのだそう。昭和一桁代の設置です。戦後の蓋は、文字の向きは左からでHWW の文字は消えました。横浜、新潟は今でも頭文字プラス ww の表記を使っていますが、広島市が戦後やめた理由は不明です。1997年ごろには約100枚くらいありましたが、今は10から20枚あればいい方かと。直径10センチと小さいけれど、持つとズシリと重いです。もう一方の広島市のマークがギザギザしてるのは、実はこれ、海軍マークだよ、と、林丈二氏が言っていました。1997年当時、広島市に2枚だけ。今は路上には残っていません。呉市で展示した時は、もし本当に海軍物件なら、これ、大和ミュージアムで展示してもおかしくないシロモノだわ、なんてある方に言われました。でも戦前なら文字の向きが右からでもよさそうなのですが。因みに消火栓など、これ以外で海軍ものは見つからず。そう言えば陸軍の蓋、というのは全国歩いてて未だに見たことはありません。

こんなのが出てきました。2014年8月28日。博多にて。駅から歩いて20分くらいのところ。みたこともない模様で古そうだったので拓本に。みつけたのは前日だったのですが、墨は用意してたけど面白いふたがあったら紙を現地調達の手配で、宿に帰ってから拓本したくなりました。ところがいざ探すと障子紙が見つからない。宿が博多駅前で、商店は山ほどあるけど障子紙なんて見つからない。仕方ないので電車で一駅くらいの距離にあるホームセンターまで歩き、ところが、途中で雨がポツポツ。雨降ったら無理なので、紙を買おうがどうしようか迷いながら移動して購入。何とか作業出来ました。ついでにダイソーで吸水布を手に入れ、ふたをきれいにお掃除。裏通りなので車の心配はありませんでした。マーキングあったので、今もあるかは不明です。

昨年 8 月頭、入船山記念館前で拓本を採っていたら、女性に話しかけられて、写真真ん中の人。7 月の大和蓋設置式で同席されていたらしく私はその方の記憶になかったのですが、向こうは覚えていてくれたらしく、そして呉に行くたびにこの方とばったりで、いつの間にか入船山夏祭りで拓本コーナーどうぞに決まり、お祭りの日、海生さんが拓本に感動して後日、額装の依頼が来て。そういや夏祭りの帰り際、RCC ラジオのパーソナリティのおだしずえさんを見かけ（声で分かりました）関本さんと知り合いなのでという話題から入り、呉で個展計画中と話たら、その際は是非、おひる一なのスタジオに起こし下さいと言われ真に受けて 11 月頃連絡いたら本当に実現。おかげでラジオ聞いて来たって人が多かったです。さらにそのラジオ聞いたテレビディレクターさんから気に入られ、翌年 1 月ごろにいままに出演、それ見た別のディレクターからの依頼で、ラジオ、勝手にトーク広島に出演。その時のパーソナリティーの方からの依頼で、先月の、日刊わしら、の週間編集長に。と、長々と書きましたが、風が吹けば桶屋がなんとかみたいなつながった話。元をたどると贈呈式のお呼ばれからのような気がします。